

- 日 時：2020年6月14日（日）
- 場 所：立川教会
- 説教題「人は心に信じて義とされ、口で公に言い表して救われる。」
- 聖 書：旧約 申命記 6：17-25（旧 p291）
新約 ローマの信徒への手紙 10：5-17（新 p288）
- 讚美歌：17「聖なる主の美しさ」と 579「主を仰ぎ見れば」

お早うございます。

新型コロナウイルスの問題が起きてから、新聞を読み、テレビを見る機会が多くなりました。時代の大きな転換点に差し掛かっているのを感じているからだと思います。これまでの私たちの生活の在り様の何が問われ、何を变えなければならぬのか。又、2ヵ月に及んだ緊急事態宣言による一斉休校や休業による影響が、これから先どのように出て来るのかなどを考えます。

まず問題として確かに生まれるのが格差の拡大です。

休校措置によってほとんどの公立学校は授業が出来なくなる中で、私の知っている私立の学校ではオンラインによる授業を続けていました。その差は取り戻せるものではありません。

又さらに深刻なのは、在宅でのテレワークによって仕事の効率にほとんど影響を受けないIT関連などの職場がある一方、需要を失い、仕事を続けることが出来ずに倒産する企業や個人事業主が続出したことです。その結果、生活が立ち行かなくなり、生活保護を申請する人々が急増しています。

私は、皆さんも同じだと思いますが、神様は、この試練の時を通して、私たちに何を語ろうとされているかを考え続けています。私に、私たちに、立川教会にです。

一日一日、刻々と伝えられて来る国内外で起きている新型コロナウイルスの問題を知らされながら、自分や家族の身の安全と教会員及び関係者の無事を祈るだけで良いのだろうか、神様は、私たちにさらに何か出来ることがあるのではないかと語られているように思えてなりません。

今日の役員会を経て、来週の総会でもこの問題について語り合うことが出来ればと思います。

それでは、今日与えられた御言葉を見てまいりましょう。

5：モーセは、律法による義について、「掟を守る人は掟によって生きる」と記しています。

この箇所は、旧約聖書のレビ記 18 章 5 節からの引用です。

18章1節から5節には次のように記されています。

- 1：主はモーセにこう仰せになった。
- 2：イスラエルの人々に告げてこう言いなさい。わたしはあなたたちの神、主である。
- 3：あなたたちがかつて住んでいたエジプトの国の風習や、わたしがこれからあなたたちを連れて行くカナンの風習に従ってはならない。その掟に従って歩んではならない。
- 4：わたしの法を行い、わたしの掟を守り、それに従って歩みなさい。わたしはあなたたちの神、主である。
- 5：わたしの掟と法とを守りなさい。これらを行う人はそれによって命を得ることができる。わたしは主である。

レビ記では、この箇所が続いて、十戒が詳細に記されています。

つまり、ここでは、神様がイスラエルの民に与えられた掟である律法を守ることによって、神様から義とされる、即ち神様の御心に適う相応しき者とされることが語られています。しかし、イスラエルの民は、神様がなぜモーセに律法を与えられたのか、その本当の意味を知る事が出来ませんでした。今日与えられたローマの信徒への手紙第10章1節から4節で、パウロはそのことを語っています。

- 1：兄弟たち、わたしは彼らが救われることを心から願い、彼らのために神に祈っています。
- 2：わたしは彼らが熱心に神に仕えていることを証しますが、この熱心さは、正しい認識に基づくものではありません。
- 3：なぜなら、神の義を知らず、自分の義を求めようとして、神の義に従わなかったからです。
- 4：キリストは律法の目標であります。信じる者すべてに義をもたらすために。

イスラエルの民は、確かに律法を守ることに熱心でした。しかし、その熱心さは、栄光を神様に帰する熱心さではなく、栄光を自分に返す、つまり律法を守る事によって自分の栄光を追い求め、自分の行為を義（ただ）しいとする熱心さでした。分かりやすく言えば、律法を守ることが、人々からの賞賛を得、自分を義とする手段であり、目的となってしまうたのです。6節です。

- 6：しかし、信仰による義については、こう述べられています。「心の中で『だれが天に上るか』と言ってはならない。これは、キリストを引き降ろすことにほかなりません。
- 7：また、『だれが底なしの淵に下るか』と言ってもならない。」これは、キリストを死者の中から引き上げることになります。

「天に上る」とは、神様の御許に帰られたイエス様を、この地上に引き戻すために「天に上る」ことです。また、「底なしの淵に下る」とは、死の淵に下られたイエス様を、この地に引き上げるために「底なしの淵に下る」ことです。しかし、これらのことはもはや必要ではありません。イエス様はすでに世に来られ、甦られた後、聖霊が私たちの間で働いているからです。8節。

8：では、何とされているのだろうか。

「御言葉はあなたの近くにあり、
あなたの口、あなたの心にある。」

これは、わたしたちが宣べ伝えている信仰の言葉なのです。

御言葉、信仰の言葉、これは主イエス・キリストの福音を意味しています。

福音は、あなたの近くにあり、あなたの口、あなたの心にある。

そうです、イエス様はすでに来られ、イエス様は甦られました。

イエス様は甦られたと口で告白し、イエス様を神様が甦らせたと心で信じる、これが私たちに訪れた福音です。何故なら、9節から11節。

9：口でイエスは主であると公に言い表し、心で神がイエスを死者の中から復活させられたと信じるなら、あなたは救われるからです。

10：実に、人は心で信じて義とされ、口で公に言い表して救われるのです。

11：聖書にも、「主を信じる者は、だれも失望することがない」と書いてあります。

教団出版局発行の増訂新版『新約聖書略解』によれば、私たちが聖餐式の時に歌っている「マラナ・タ」は、イエス様が日常使われていたアラム語で、「われらの主よ、きたりませ」という意味です。「イエスは主なり」と告白することは、復活を信じるという原始キリスト教会の最も根本的な信仰告白でした。この告白によって、人々はキリスト者とされ、バプテスマは主イエスの名によって授けられました。つまり、「イエスは主なり」と唱えることは、復活したキリストを心で信じることです。

12、13節です。

12：ユダヤ人とギリシア人の区別はなく、すべての人に同じ主がおられ、御自分を呼び求めるすべての人を豊かにお恵みになるからです。

13：「主の名を呼び求める者はだれでも救われる」のです。

ユダヤ人は、神様によって選ばれた民です。そして、ギリシア人は、それ以外の異邦人を代表する者です。まさに、選ばれた民と異邦の民との区別なく、「すべての民に同じ主がお

られ、ご自分を呼び求めるすべての人を豊かにお恵みになる」と言うのです。ここでは、「主の名を呼び求める者はだれでも救われる」と、救いをユダヤ民族にのみ限定しようとした選民思想を克服するパウロの信仰の確信が語られています。

続く 14、15 節は、救いに与ることの出来ないユダヤ人を想定し、彼らからの問いかけに答えるパウロの言葉です。

14：ところで、信じたことのない方を、どうして呼び求められよう。聞いたことのない方を、どうして信じられよう。また、宣べ伝える人がなければ、どうして聞くことができよう。

15：遣わされないで、どうして宣べ伝えることができよう。

救いに与ることの出来ないユダヤ人からすれば、尤もな理屈です。しかし、福音は宣べ伝えられなかったのでも、聞かされなかったのでもなく、至るところで語られました。しかし、ユダヤ人たちは、一切聞く耳を持たなかったのです。『『良い知らせを伝える者の足は、何と美しいことか』と書いてある』にもかかわらず、彼らは耳を傾けませんでした。

だから 16 節で彼らに対してイザヤの言葉が引用され、17 節で結論が示されるのです。

16：しかし、すべての人が福音に従ったわけではありません。イザヤは、「主よ、だれがわたしたちから聞いたことを信じましたか」と言っています。

17：実に、信仰は聞くことにより、しかも、キリストの言葉を聞くことによって始まるのです。

私たちキリスト者にとって、信仰は、主イエス・キリストの言葉を聞くことによって始まると証言されました。今日与えられた聖書の御言葉で、パウロの信仰の確信を改めて知り得たことは恵みです。

「実に、信仰は聞くことにより、しかも、キリストの言葉を聞くことによって始まるのです。」

この時、このところ、私には一つの問いが生まれています。

それは、信仰が与えられた私たちの生きる道についての問いです。

どのように日々を生きて行けば良いのかです。

私の心に響いて来るイエス様の言葉があります。

マタイによる福音書第 7 章 24 節から 29 節の言葉です。

24：そこで、わたしのこれらの言葉を聞いて行う者は皆、岩の上に自分の家を建てた賢い人に似ている。

25：雨が降り、川があふれ、風が吹いてその家を襲っても、倒れなかった。岩を土台としていたからである。

26：わたしのこれらの言葉を聞くだけで行わない者は皆、砂の上に家を建てた愚かな人に似ている。

27：雨が降り、川があふれ、風が吹いてその家に襲いかかると、倒れて、その倒れ方がひどかった。

28：イエスがこれらの言葉を語り終えられると、群衆はその教えに非常に驚いた。

29：彼らの律法学者のようにではなく、権威ある者としてお教えになったからである。

新型コロナウイルスの問題が起きて以降、私はマタイによる福音書のこの箇所が気になり始めました。御言葉を聞くとはどのようなことかと言うことです。御言葉を聞くとは、御言葉を心に留めることです。心に留めるとは、その御言葉を自分の生活の中で生きることです。自分の生活の中で生きるとは、その御言葉に相応しい生き方を実際に行うことです。

それが、御言葉を聞くと言うことではないかと。

そして、私は、自分の今の生活が、イエス様が語られた御言葉に聞き、御言葉に生きている生活であるのかどうか、問われ始めているように思えるのです。この特別の時代の中で、私は、私たちは、なおすべきことがあるのではないかとの問いです。

ただ、誤解されてはならないのは、立川教会で何か大きな事業を始めようとするのではありません。大きな歴史的転換の時代の只中で、困難な生活を強いられている人々の現実を忘れることなく覚え続けることが一つ、そして、そのために何か出来ることがあれば、そのことを探し求めて、無理をすることなく出来る範囲で取り組んで行くことが一つ、そのようなことを考えています。

祈りましょう。

